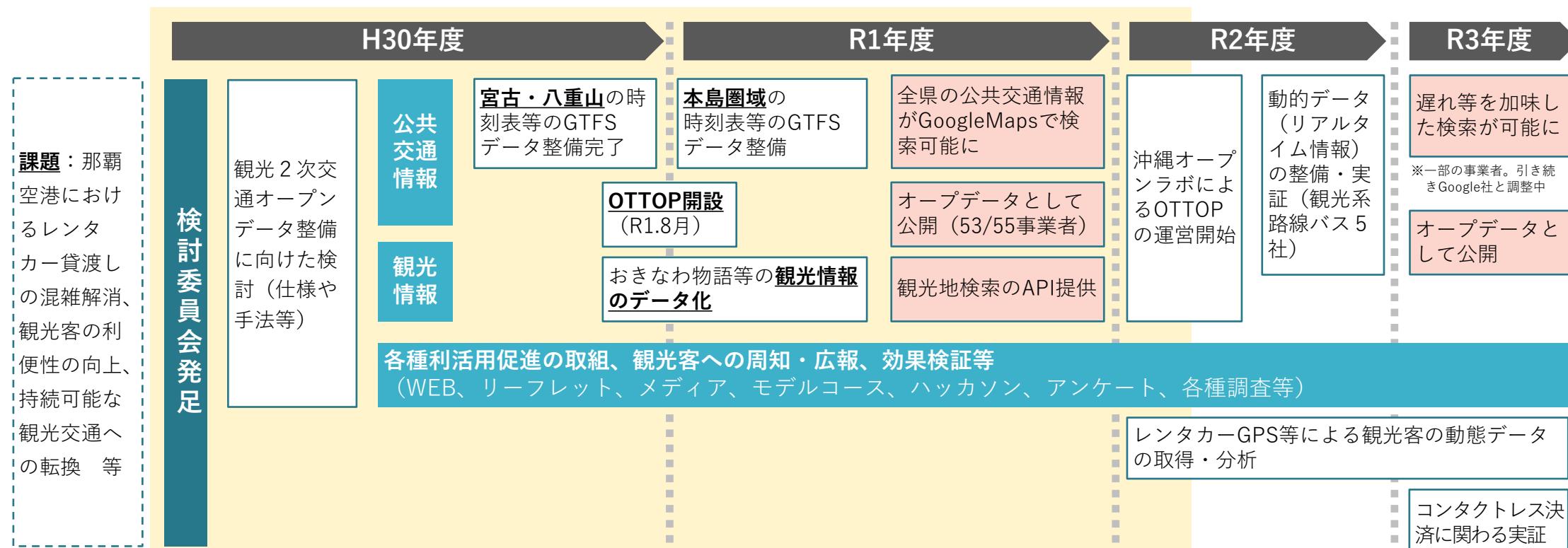


令和3年度 第2回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

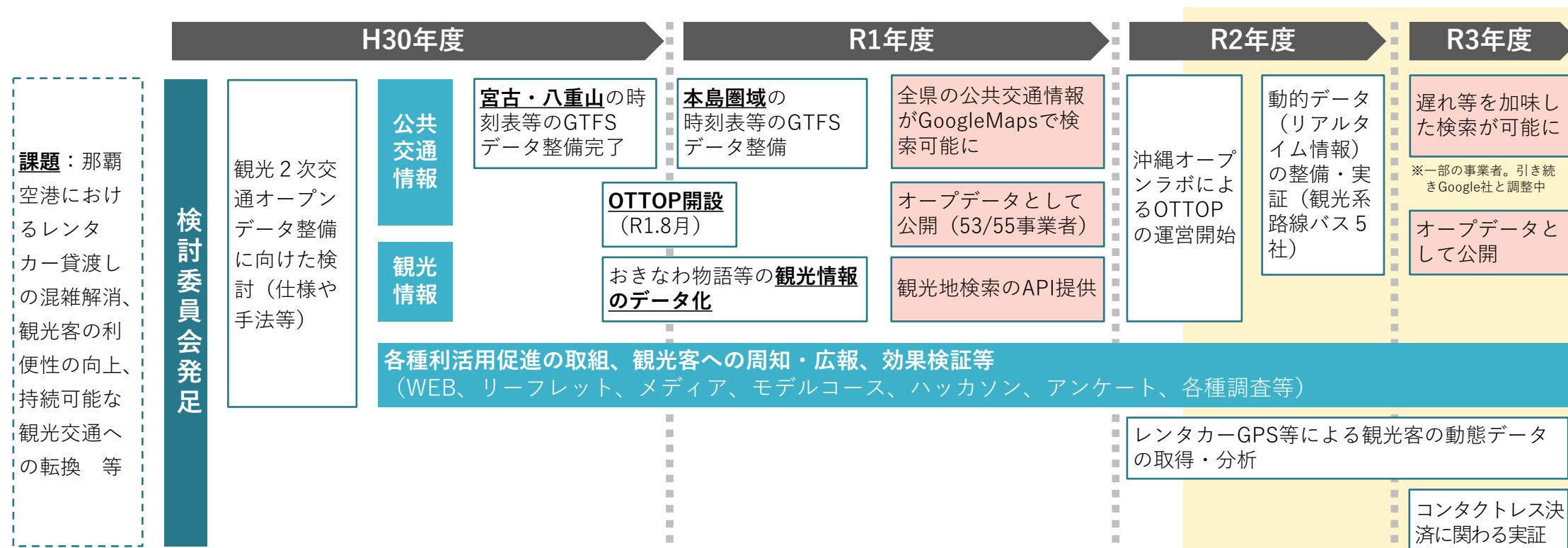
今後の観光 2 次交通の利便性向上に向けて

令和4年2月14日

- ◆那覇空港におけるレンタカー貸渡しの混雑や、観光客の利便性の向上、持続可能な観光交通への転換等を背景に平成30年度より本委員会での検討を開始。
- ◆公共交通による観光地アクセスの不案内を改善するため、公共交通情報、観光情報を汎用性のある標準的なフォーマットで整備。（公共交通情報はGTFS形式、観光情報はGoogleマイビジネスに準拠）
- ◆時刻表等の公共交通情報はH30年度に宮古・八重山圏域、R1年度に本島圏域と2年かけて全県のデータ整備を完了。
⇒ Googleマップでは県内全公共交通情報（+由布島水牛車）が検索可能に（全55事業者）。
⇒ R1年度にデータを提供するプラットフォームとして公開を開始したOTTOP（沖縄観光2次交通オープンデータプラットフォーム）においてオープンデータとして公開。
⇒ 観光情報については、一部をOTTOP内で観光地検索のAPIとして提供
- ◆OTTOPについては、H30年度、R1年度の事業を踏まえ、一般社団法人沖縄オープンラボラトリにて運営開始（R2年度より）。



- ◆R2年度については、公共交通検索をさらに発展させるためのデータ整備として、観光系の路線バスを対象とした動的データ（リアルタイム情報、遅れを含む検索）の実証を実施。リアルタイム情報については、標準的なフォーマット（GTFS-RT形式）にてOTTOPにおいてオープンデータとして公開。
⇒対象各社においてGoogle社と引き続き調整中ではあるが、東京バスについては2022年1月よりGoogleMapsにおいて遅れ等を加味した検索が可能に。（やんばる急行は2021年12月より自社対応としてGoogleMapsにおいて遅れ等を加味した検索が可能に）
- ◆またR2年度より、今後の観光2次交通等に関する検討を行う上での実態把握として、レンタカーGPSデータ等による観光客の動態データの取得・分析を実施。
- ◆R3年度については、新たな観光2次交通の利便性向上の取組としてコンタクトレス決済に関する実証を開始。
- ◆これらの取組について、各種利活用促進の取組、観光客への周知・広報、効果検証などと併せて取り組んできた。



これまでの実施内容や成果等を踏まえつつ、今後の観光2次交通の利便性向上に向けて取り組むべき事項等について幅広くご意見をいただきたい。

◆観光2次交通オープンデータの利活用促進

- ⇒ 県内の自治体、観光協会、観光事業者、交通事業者、県内外のIT事業者やMaaS等の取組への周知、連携体制強化
- ⇒ 観光情報オープンデータの利活用に向けたさらなる取組 など

◆公共交通による観光の利便性向上に向けた取組

- ⇒ コンタクトレス決済等のさらなる取組
- ⇒ デジタルチケットやMaaS等の普及促進、支援 など

◆公共交通による観光モデルの情報発信等

- ⇒ モデルコース等の構築や情報発信
- ⇒ 観光MM（モビリティ・マネジメント：公共交通による観光の障壁を取り除く、意識変容を促すような情報発信） など